



ドクター・ハザマの

# バイタルサイン塾 22

## 「謎解き」を駆使し「薬剤師3.0」の具現化へ

ファルメディコ株式会社  
 大阪大学大学院医学系研究科生体機能補完医学講座  
 医師・医学博士 狭間 研至

### 次世代型薬剤師「薬剤師3.0」の要件とは何か

6年制薬学教育に対応する次世代型の薬剤師の条件は、血圧が測れるようになることでも、在宅に行くことでもありません。

なぜなら、処方せんを応需して、処方監査をし、迅速・正確に調剤したあと、服薬指導とともに患者さんにお薬をお渡しし、その一連の経過を遅滞なく薬歴に記載するという仕事の枠組みの中では、血圧を測るタイミングはないからです。

また、お薬をお渡しし、服薬指導する場所が、薬局店頭から在宅に移ったとしても、薬学教育を6年制に刷新することの理由としては十分ではないことも理由の1つです。

次世代型薬剤師（＝薬剤師 3.0）の要件は、「謎解き」ができるかどうかだと私は考えています。目の前の患者さんの状態変化について、薬剤師が薬学的専門性に基き解釈し、評価し、説明することができるようになれば、今までと違った患者さんへのケア、チーム医療のなかでのより専門性を発揮した貢献が可能になるはずですよ。

### 「フィジカルアセスメント」こそ薬剤師の「謎解き」だ

「フィジカルアセスメント」とは、まさに薬剤師による「謎解き」です。血圧、脈拍を測定したり、呼吸音を聴取したりしつつ患者さんの状態を把握し、その変化やトレンドを、自らが調剤した医薬品による影響を考慮して説明できるということは、患者さんや他の

医療職、介護職からすれば、まさに薬剤師による「謎解き」になります。

医師も、患者さんの治療・療養経過のなかで現れるさまざまな症状や体調変化について、その理由やメカニズムを考えますが、これは「謎解き」にほかなりません。重要なのは、医師と薬剤師の「謎解き」の根拠となる理論や知識が、医学と薬学という、隣接してはいますが明確に異なっているということです。

### 医師と薬剤師の「謎解き」はどこが違うのか

腹痛を訴える患者さんが受診されたときには、医師は病歴や既往歴の問診、腹部の触診・聴診、体温や血圧・脈拍の測定などを行い、なぜ、おなかが痛くなったのかを説明します。同時に解決策（＝治療法）が頭に浮かぶので、処方内容がひらめきますし、内科的治療では不十分だと感じたときには外科的治療を選択します。これらの背景にあるのは、医学部で学ぶ解剖学・生理学、病理学・病態学という、医師としての専門知識です。

同様に考えれば、薬剤師の「謎解き」は、日常の業務のなかで、患者さんの腹痛という症状を、病歴や既往歴の問診に加え、バイタルサインや種々の身体的所見を活用して、薬剤師が調剤したお薬とも関連づけて説明することといえるでしょう。

その背景に、医療薬学の知識だけでなく、薬学部で学ぶ薬理学・薬物動態学・製剤学という薬剤師としての専門知識があれば、医療における薬剤師のあり方は大きく変わり、6年制薬学教育にも対応した「薬剤師 3.0」の具現化に大きく近づくはずですよ。